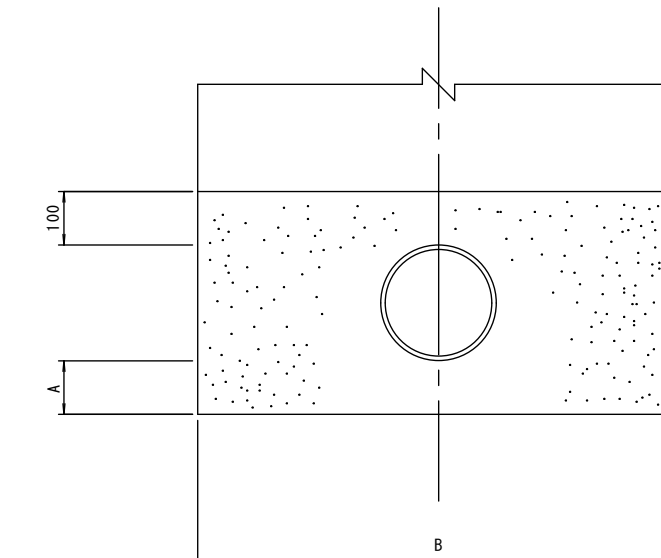
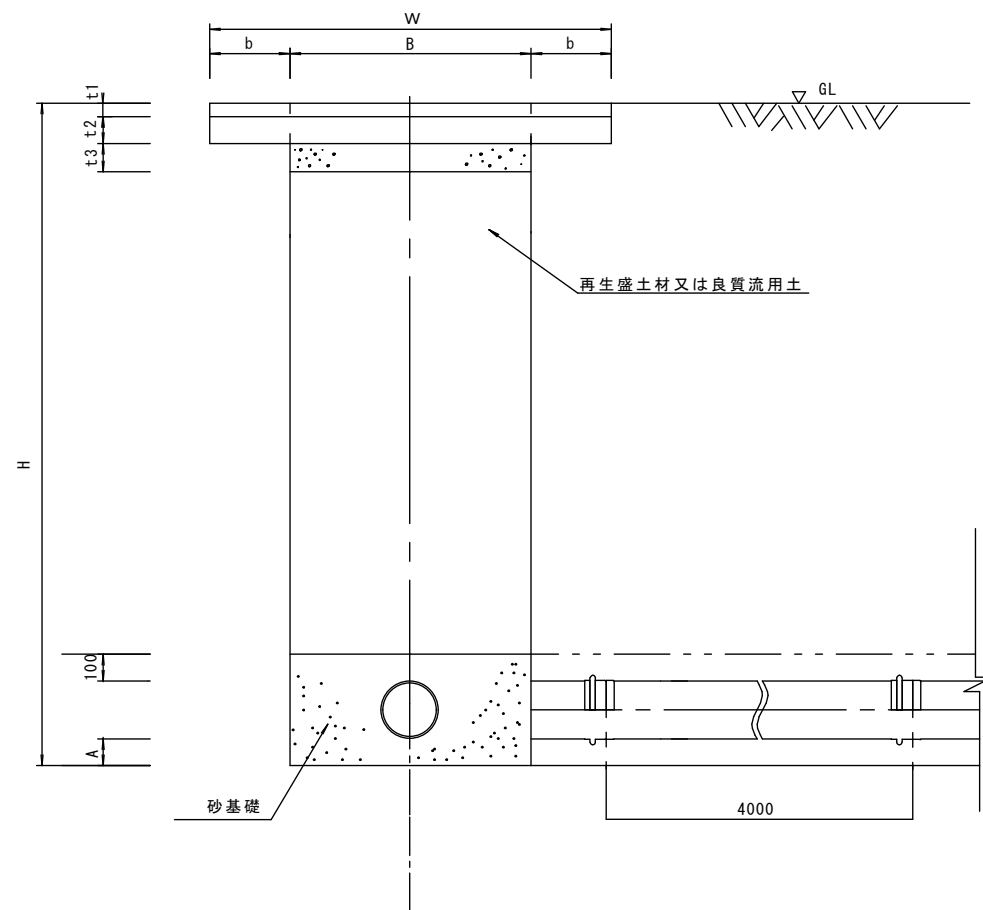


φ 125～ 砂基礎工

下水道用硬質塩化ビニル管布設工  
JSWASK-1 S=FREE

砂基礎工詳細図

S=1:10



硬質塩化ビニル管		
呼び径	厚さ	外径
125	7.5	140
150	7.5	165
200	8.0	216
250	8.5	267
300	9.0	318
350	10	370
400	10	420
450	10	470
500	10	520

単位: mm

影響幅: b (mm)				
アスファルト舗装	表層 (t1)	上層路盤厚 (t2)	下層路盤厚 (t3)	b = t2 + t3
私道	40	100	-	100
N3交通	50	150	150	300
N4交通	50	150	250	400
N5交通	50 (基層50)	150	250	400

管径 (mm)	地盤		
	普通地盤	岩盤・転石地盤	軟弱地盤
200以下	100以上	100以上	100以上
250～450	150以上	150以上	150以上
500以上	200以上	200以上	200以上

呼び径	掘削幅 (B)		
	矢板なし	軽量鋼矢板	建込み簡易土留
200	700	900	1,350
250	750	950	1,350
300	800	1,000	1,350
350	850	1,050	1,350
400	900	1,100	1,350
450	950	1,150	1,350
500	1000	1,200	1,350

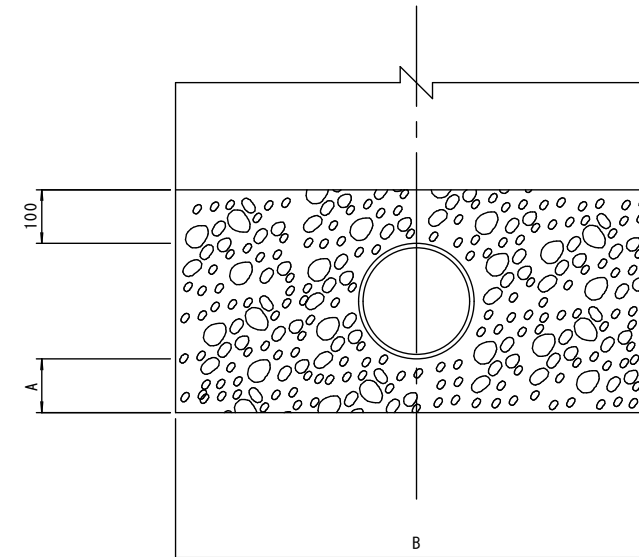
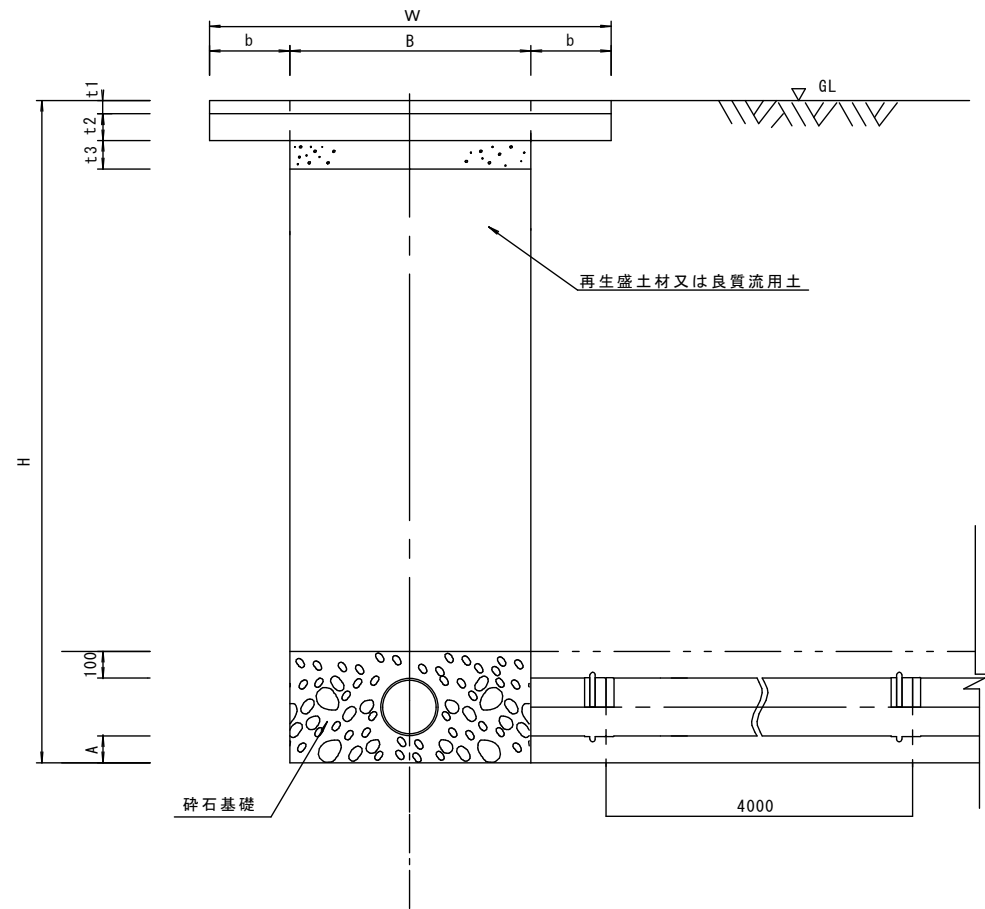
※富士市下水道実施設計要領に基づき埋戻しは20cm毎に転圧を行う事。  
 ※基礎材は原則としてPS灰使用の再生砂を使用するものとする。  
 ※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。

φ 150～ 碎石基礎

下水道用リブ付硬質塩化ビニル管布設工  
JSWASK-13 S=FREE

碎石基礎工詳細図

S=1:10



リブ付硬質塩化ビニル管

呼び径	厚さ	外径
150	3.0	156
200	3.0	206
250	3.0	256
300	3.5	307
350	4.0	358
400	4.0	408
450	4.0	458

単位: mm

影響幅: b (mm) b=t2+t3

アスファルト舗装	表層 (t1)	上層路盤厚 (t2)	下層路盤厚 (t3)	b
私道	40	100	-	100
N3交通	50	150	150	300
N4交通	50	150	250	400
N5交通	50 (基層50)	150	250	400

基床厚: A (mm)

管径 (mm)	地盤	普通地盤	岩盤・転石地盤	軟弱地盤
200以下		100以上	100以上	100以上
250~450		150以上	150以上	150以上
500以上		200以上	200以上	200以上

掘削幅: B (mm)

呼び径	掘削幅 (B)		
	矢板なし	軽量鋼矢板	建込み簡易土留
200	700	900	1,350
250	750	950	1,350
300	800	1,000	1,350
350	850	1,050	1,350
400	900	1,100	1,350
450	950	1,150	1,350
500	1000	1,200	1,350

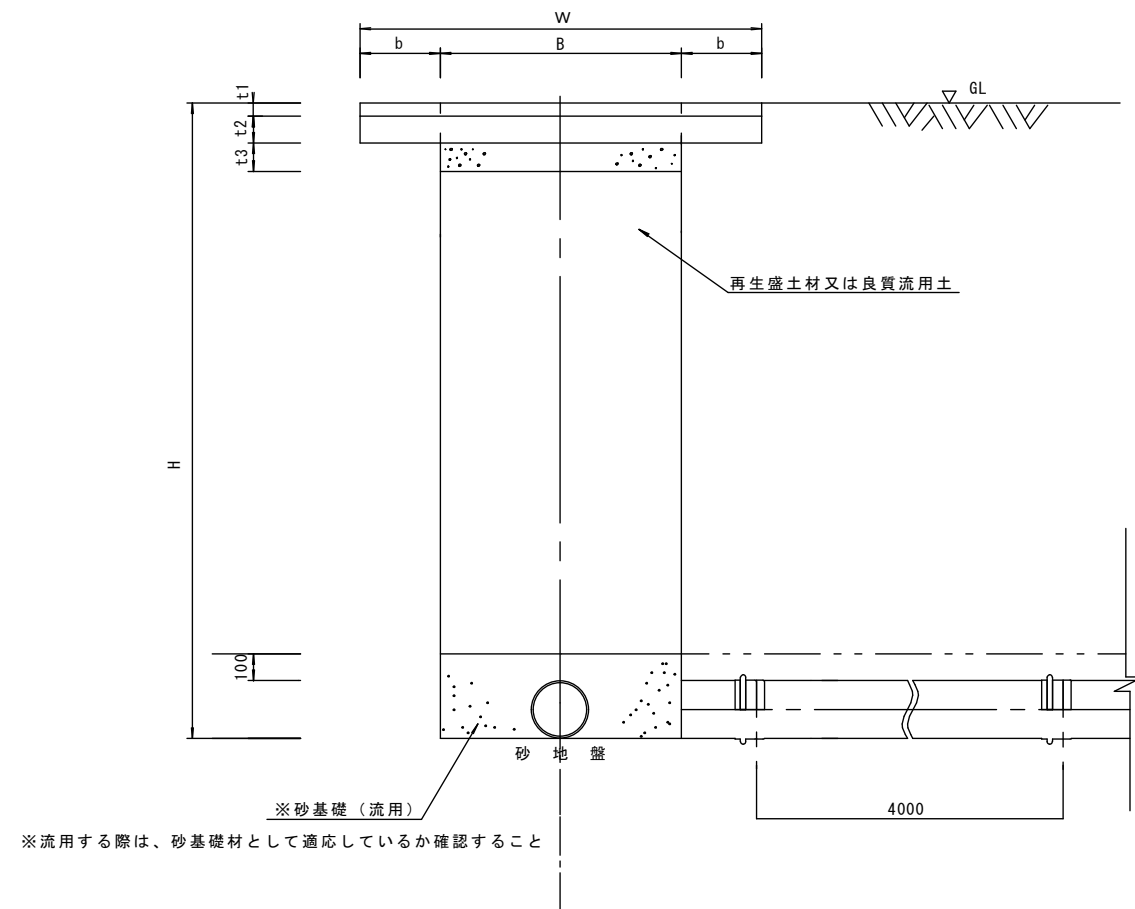
※富士市下水道実施設計要領に基づき埋戻しは20cm毎に転圧を行う事。  
 ※基層材は原則として再生材を使用すること。  
 ※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。

φ 125～ 砂地盤仕様

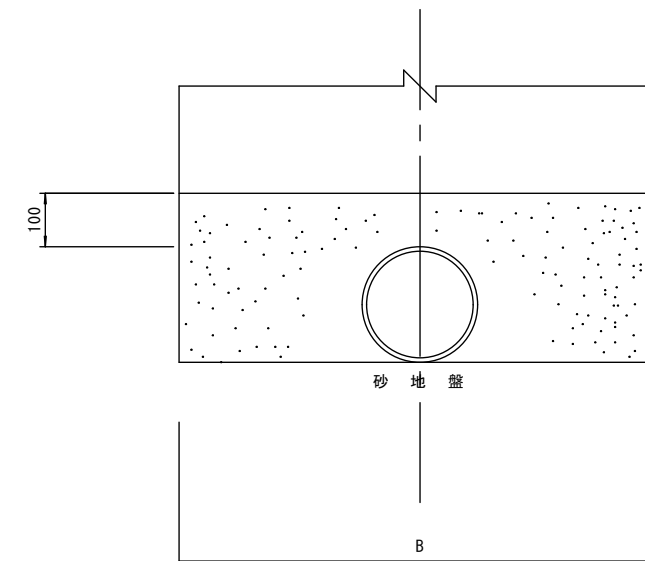
下水道用硬質塩化ビニル管布設工  
JSWASK-1 S=FREE

砂基礎工詳細図

S=1:10



※流用する際は、砂基礎材として適応しているか確認すること



硬質塩化ビニル管		
呼び径	厚さ	外径
125	7.5	140
150	7.5	165
200	8.0	216
250	8.5	267
300	9.0	318
350	10	370
400	10	420
450	10	470
500	10	520

単位:mm

影響幅:b(mm)	b=t2+t3		
	表層(t1)	上層路盤厚(t2)	下層路盤厚(t3)
私道	40	100	-
N3交通	50	150	150
N4交通	50	150	250
N5交通	50(基層50)	150	250

掘削幅:B(mm)

呼び径	掘削幅 (B)	
	軽量鋼矢板	建込み簡易土留
200	900	1,350
250	950	1,350
300	1,000	1,350
350	1,050	1,350
400	1,100	1,350
450	1,150	1,350
500	1,200	1,350

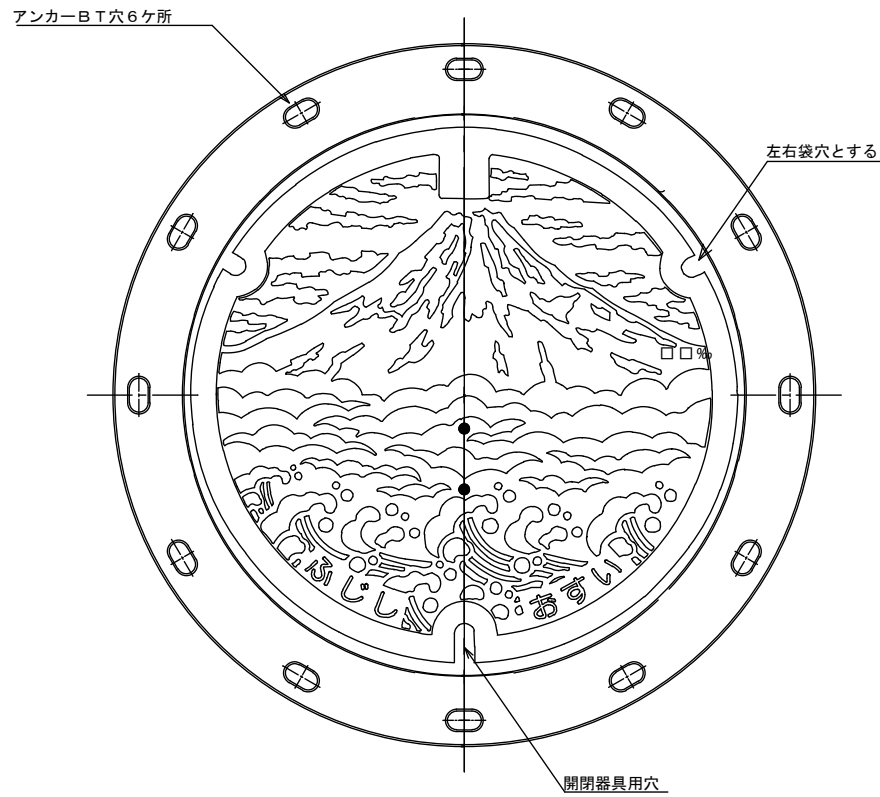
※富士市下水道実施設計要領に基づき埋戻しは20cm毎に転圧を行う事。  
 ※基礎材は原則としてPS灰使用の再生砂を使用するものとする。  
 ※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。

# 人孔鉄ふた (φ600) 一般図

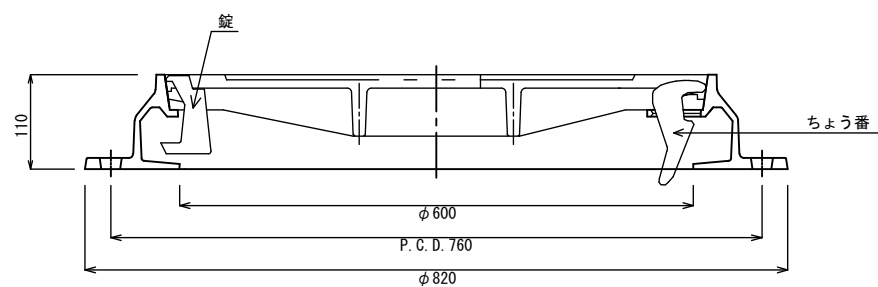
縮尺 FREE

## 富士市デザインふた

平面図

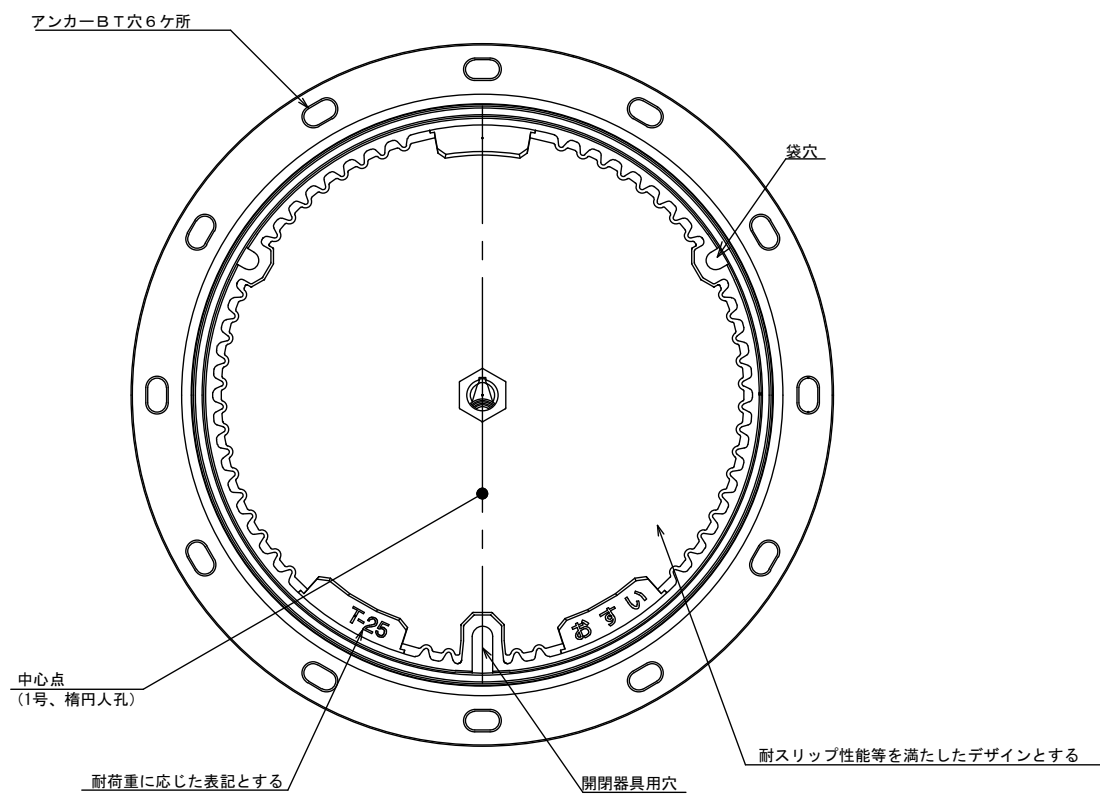


断面図

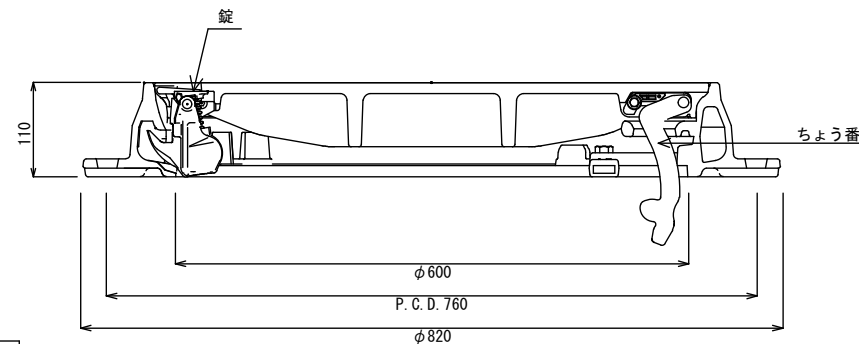


## 次世代型鉄ふた 高機能型鉄ふた

平面図

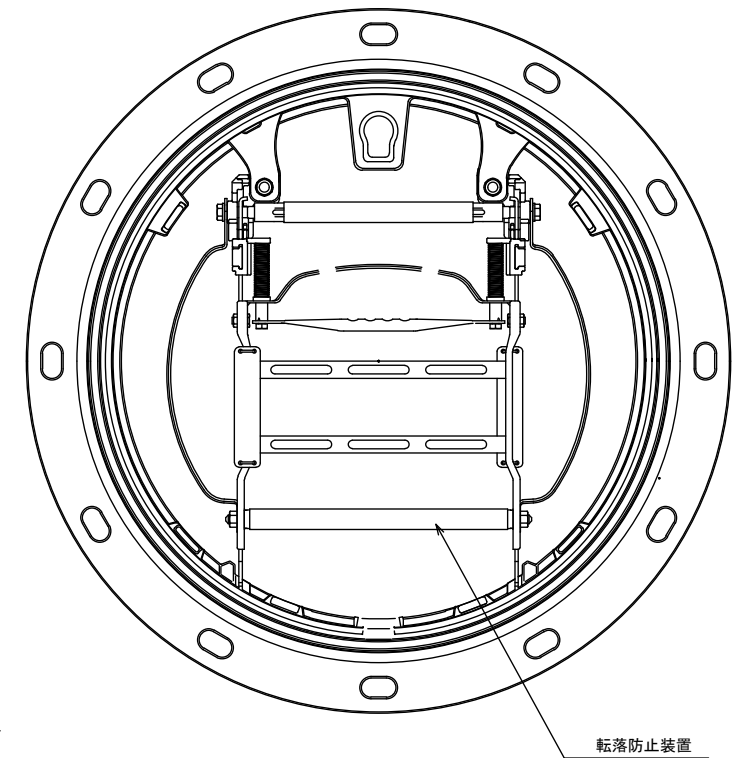


断面図

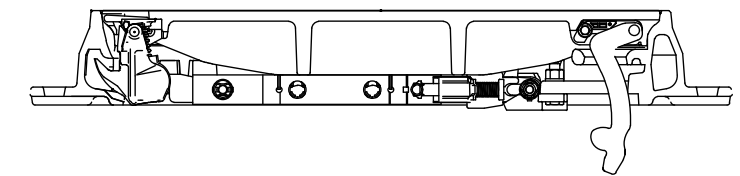


## 転落防止装置

平面図



断面図



適用箇所	耐荷重	マンホールふたの種類		
		次世代型 <sup>※1</sup>	高機能型 <sup>※1</sup>	デザインふた <sup>※1</sup>
車道幅員5.5m以上またはN4交通以上の車道部	T-25	○	—	—
上記以外の車道部	T-14	○	○	—
歩道	T-14	▲ <sup>※2</sup>	○	○

※1 特殊環境下では「防食性」「転落防止性」の特殊付加性能の追加を行うこと

※2 坂道や普通貨物自動車以上の乗入れが想定される箇所では次世代型または高機能型の設置を検討する。

※富士市設計要領に基づいたふたを設置すること

※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。

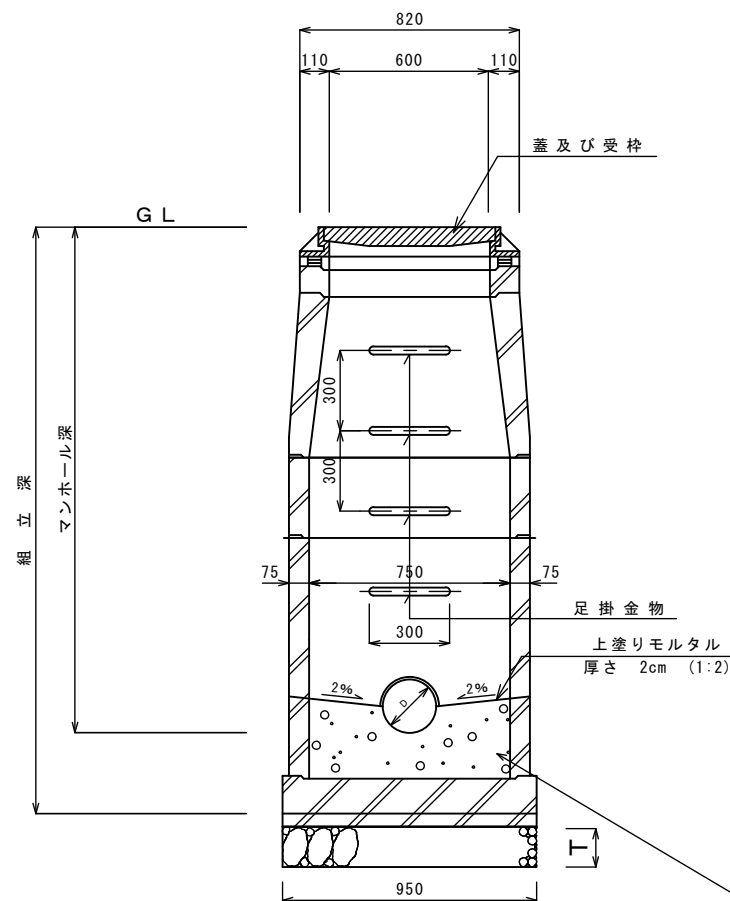
下水道標準設計図

# 組立0号マンホール一般構造図 縮尺 FREE

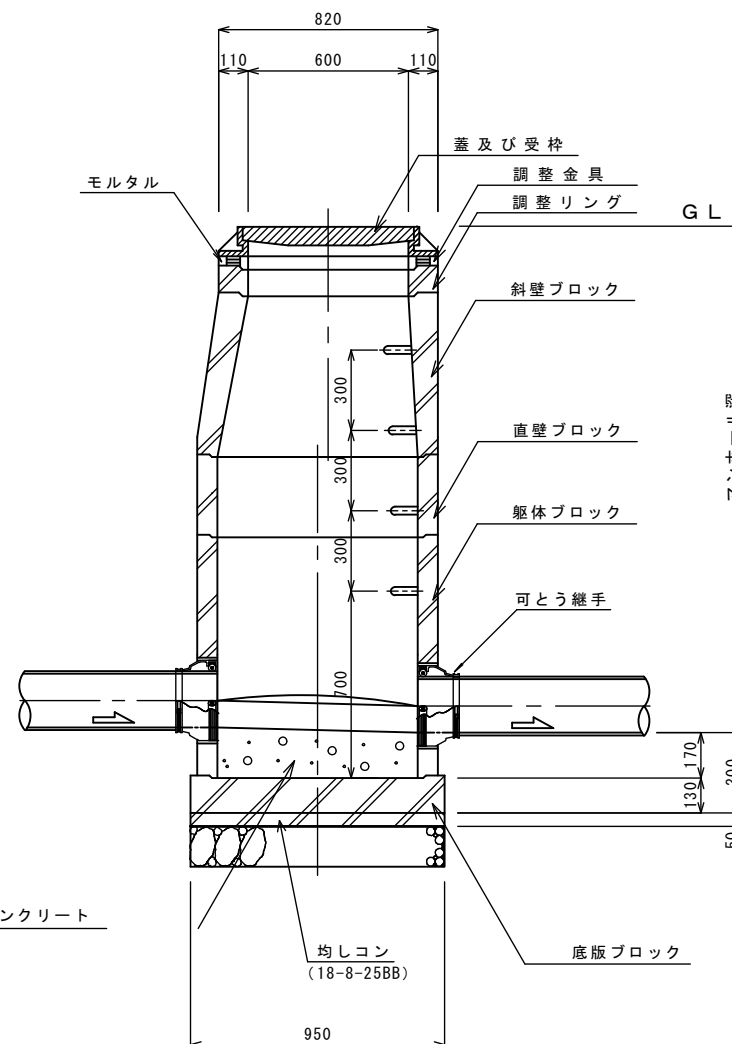
内径750mm

## 可とう性継手仕様

横断面図



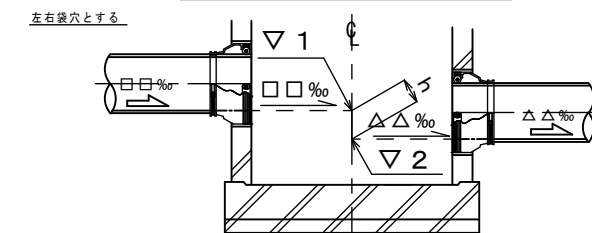
縦断面図



## インバート工の考え方

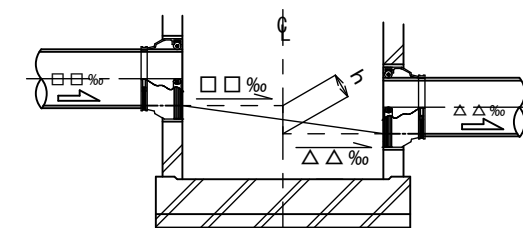
(人孔内落差 1cmの場合)

### 設計値



※設計値は▽1及び▽2の高さを示す。

### インバート施工時



※実際に施工する際は実線部のように滑らかにインバートを施工すること

底版部基礎材区分表

	均しC厚	基礎材厚 T
均しC基礎	50mm	0mm
均しC基礎+砕石基礎	50mm	100mm
均しC基礎+栗石基礎	50mm	150mm

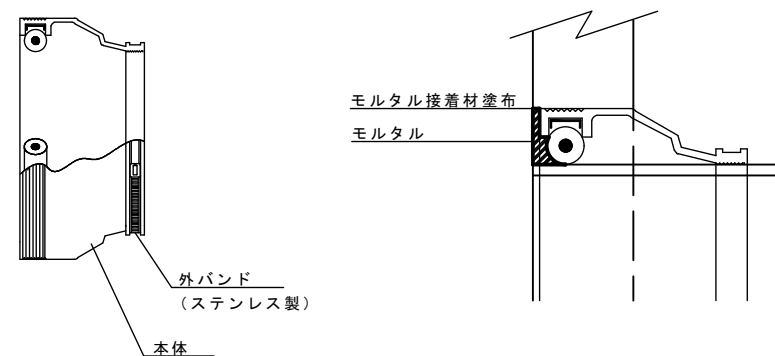
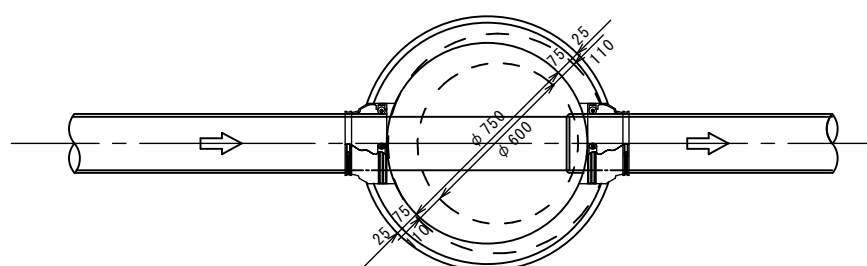
※設計書の内容及び現場条件を考慮の上、基礎の施工を行ってください。

## 可とう性継手

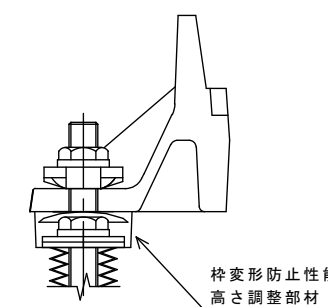
## モルタル仕上図

## レベル調整機構

平面図



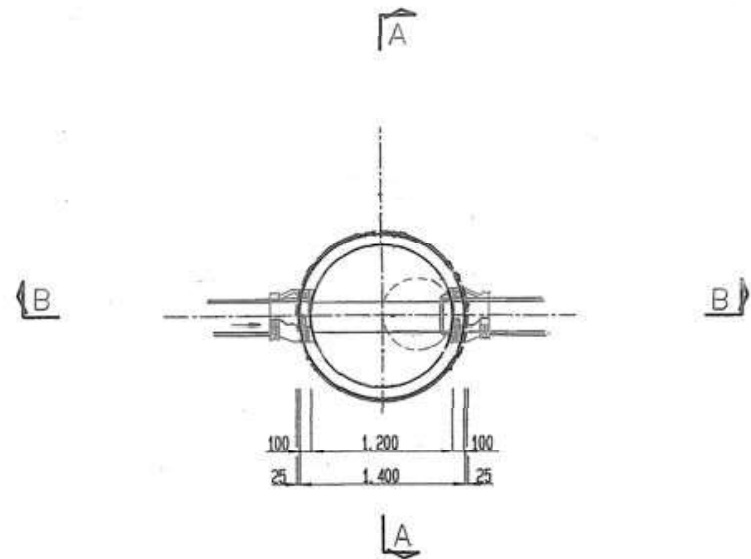
※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。



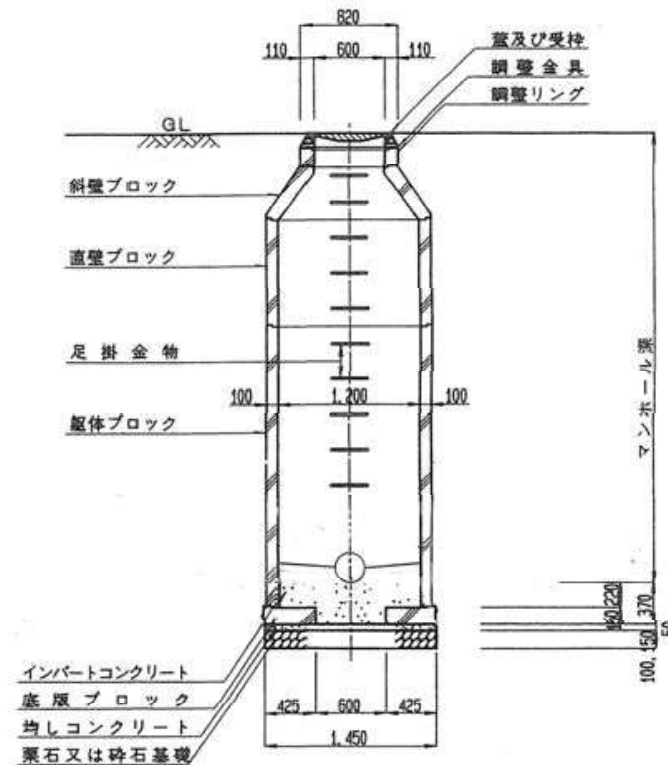


2号組立マンホール構造図(内径1200mm) 縮尺 FREE

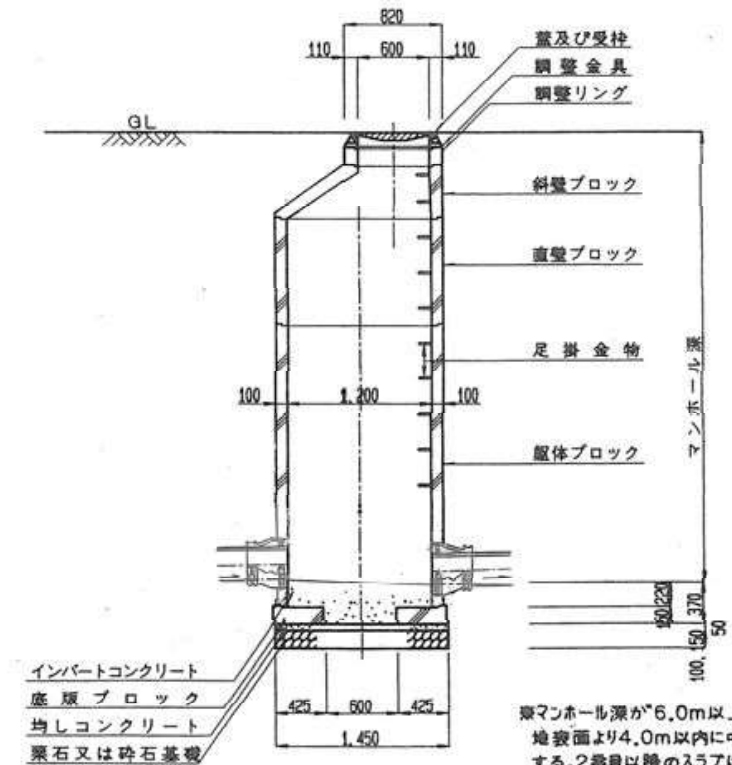
平面図



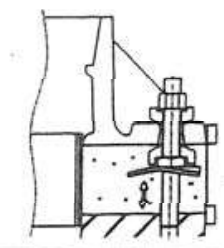
A - A



B - B



レベル調整機構  
フレックスホルダー3ヶ所セット



※マンホール深が6.0m以上となるものは、  
地表面より4.0m以内に中間入ラフを設置  
する。2番目以降の入ラフは5m間隔とする。  
また地表面から5.0mを超えるく体及び直  
壁には、深形を使用する。

※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。

下水道標準設計図

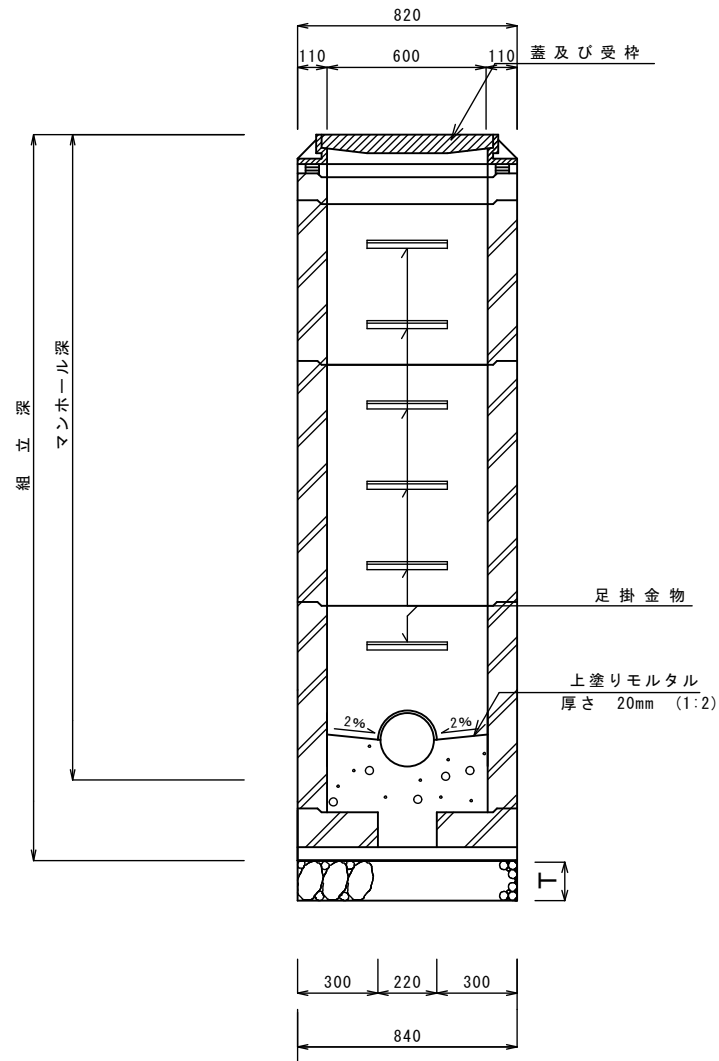
# 組立楕円人孔一般構造図 縮尺 FREE

一般構造図

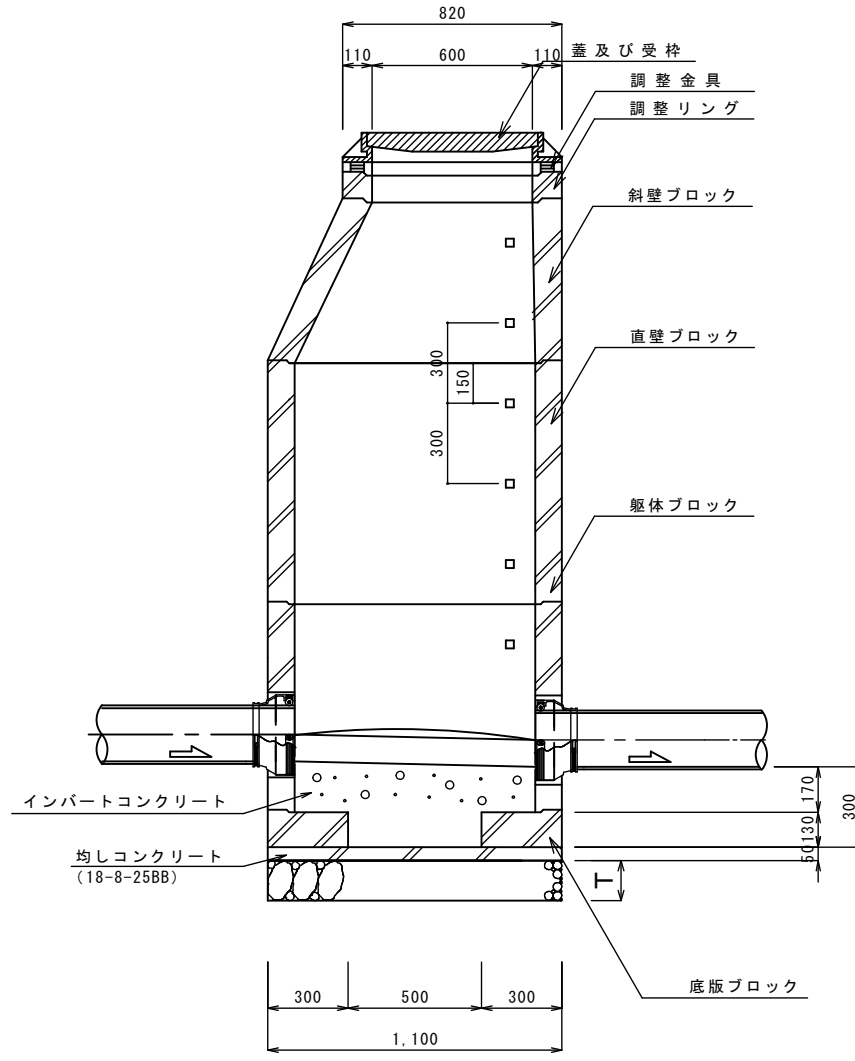
S = 1 : 20

可とう性継手仕様

横断面図



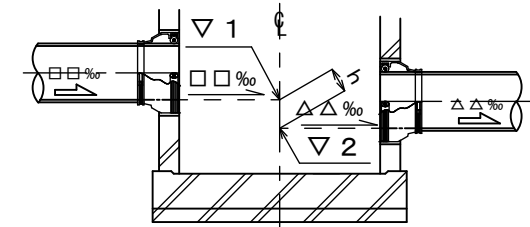
縦断面図



## インバート工の考え方

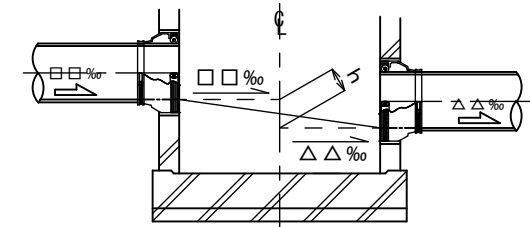
(人孔内落差 1cmの場合)

### 設計値



※設計値は▽1及び▽2の高さを示す。

### インバート施工時



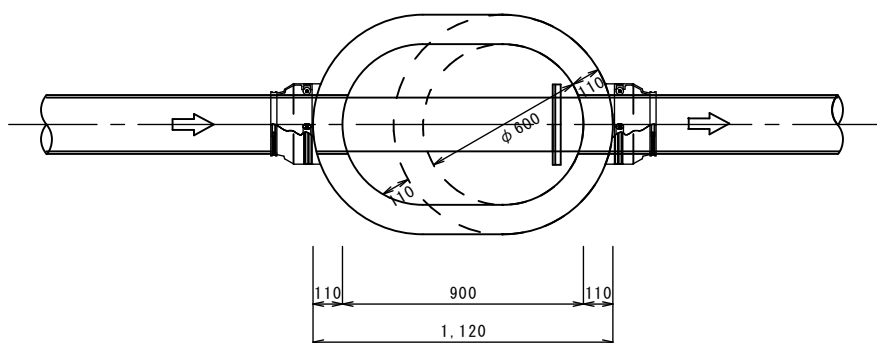
※実際に施工する際は実線部のように滑らかにインバートを摺りつけること

底版部基礎材区分表

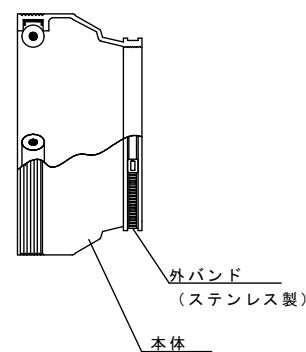
	均しC <sub>0</sub> 厚	基礎材厚 T
均しC <sub>0</sub> 基礎	50mm	0mm
均しC <sub>0</sub> 基礎+碎石基礎	50mm	100mm
均しC <sub>0</sub> 基礎+栗石基礎	50mm	150mm

※設計書の内容及び現場条件を考慮の上、基礎の施工を行ってください。

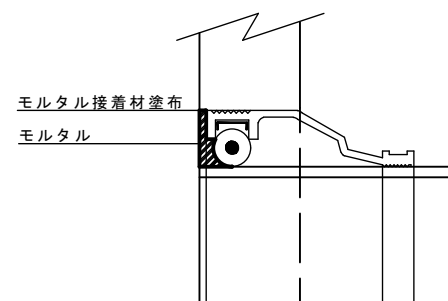
平面図



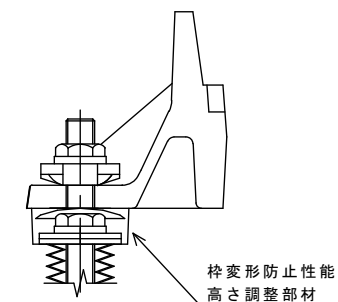
## 可とう性継手



## モルタル仕上図



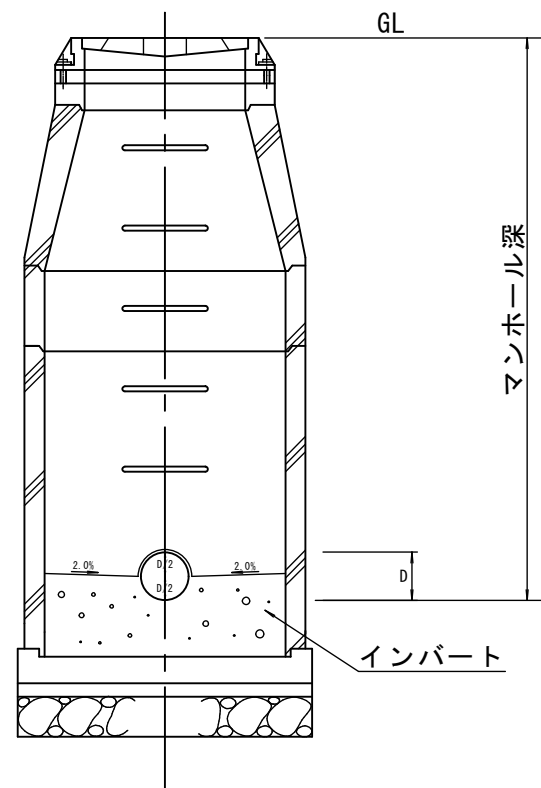
## レベル調整機構



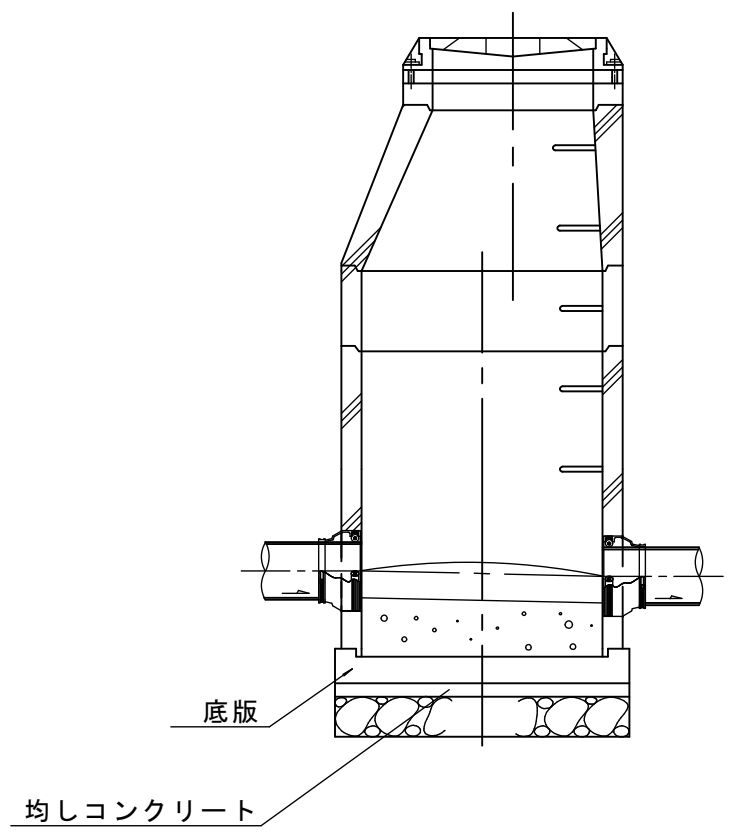
※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。



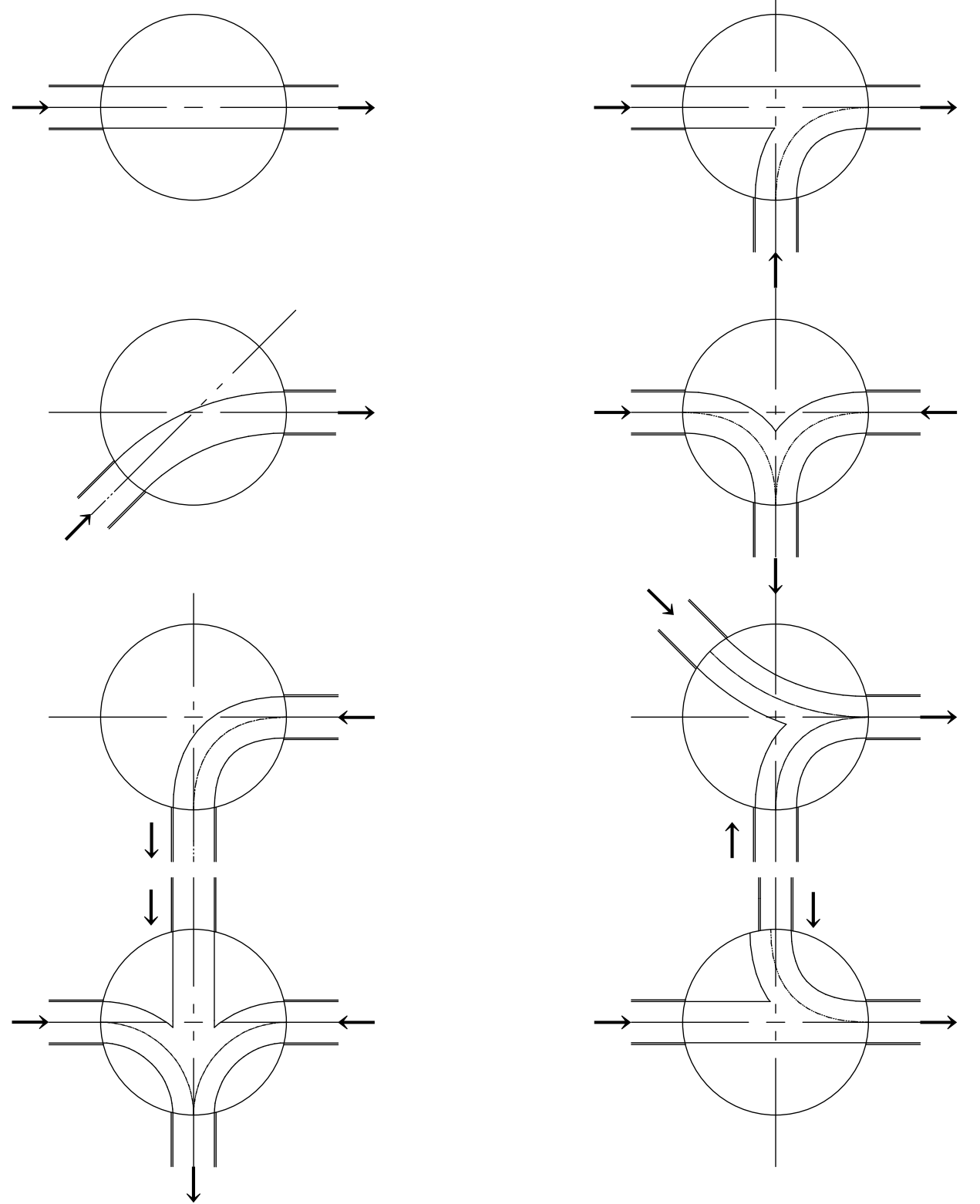
断面図



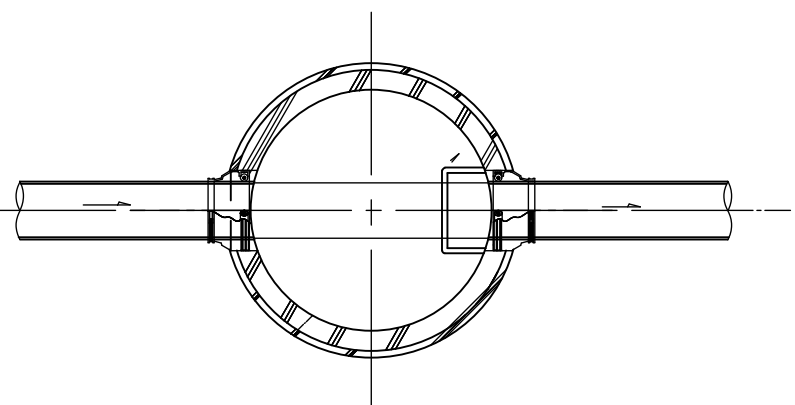
側面図



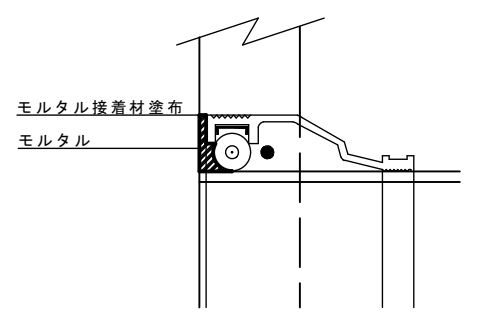
インバート工図



平面図



管口仕上図



※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。

# (0号・1号・楕円MH) 人孔防護コンクリート一般構造図

縮尺 FREE

一般構造図

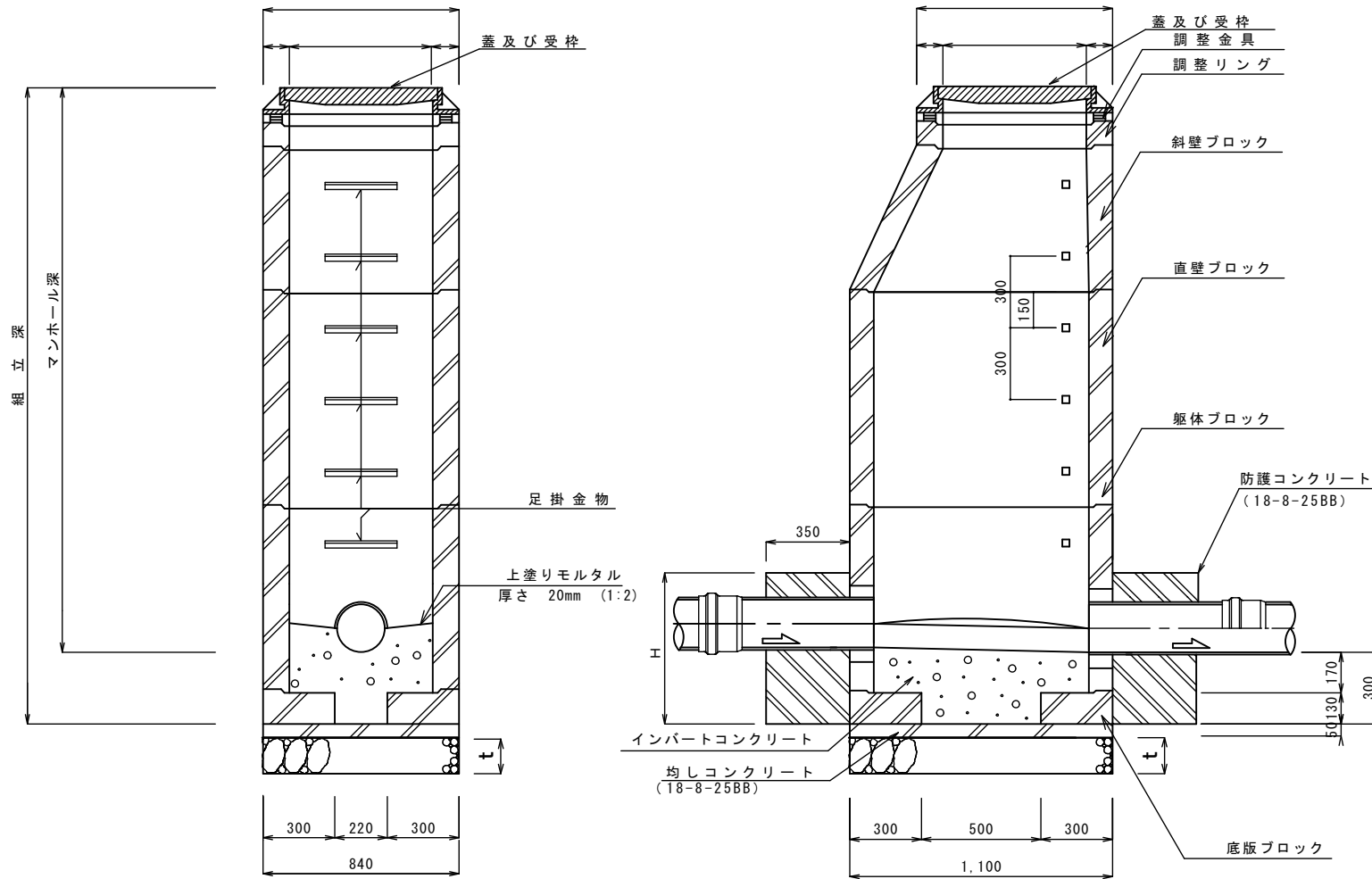
S = 1 : 20

楕円

横断面図

縦断面図

平面図



底版部基礎材区分表

	均しC <sub>0</sub> 厚	基礎材厚 t
均しC <sub>0</sub> 基礎	50mm	0mm
均しC <sub>0</sub> 基礎+碎石基礎	50mm	100mm
均しC <sub>0</sub> 基礎+栗石基礎	50mm	150mm

※設計書内容及び現場条件を考慮の上、基礎の施工を行ってください。

D	ヒューム管		塩ビ管		リブ付塩ビ管	
	T	H	T	H	T	H
φ 150	400	600	370	570	370	570
φ 200	450	650	420	620	430	630
φ 250	510	710	470	670	490	690
φ 300	560	760	520	720	540	740
φ 350	610	810	570	770	600	800

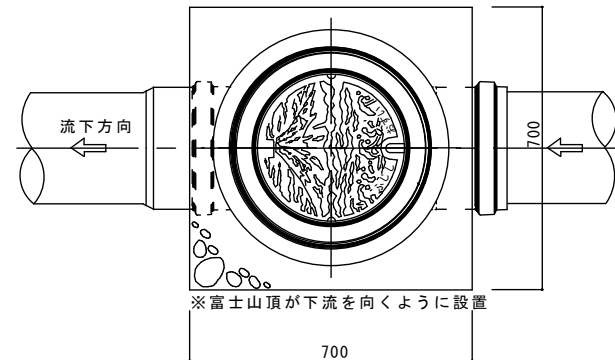
※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。

下水道標準設計図

# φ300小口径 (φ200本管用)

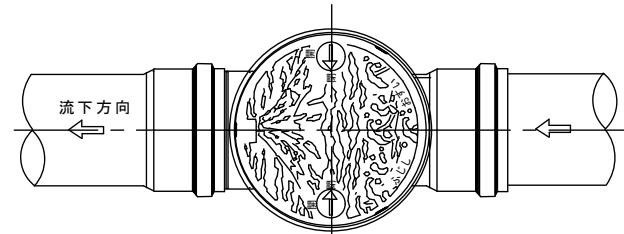
## 設置図

**防護蓋仕様**  
(T-14, 25)



※富士山頂が下流を向くように設置

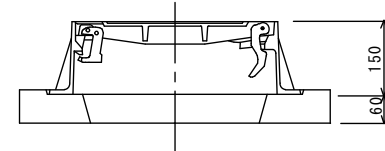
**塩ビ蓋仕様**  
(T-2)



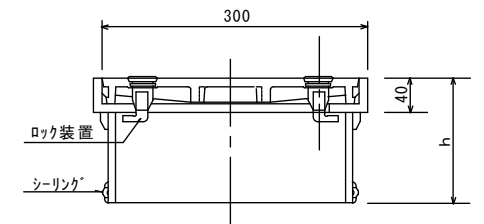
※富士山頂が下流を向くように設置

※防護蓋の中心が小口径ホールのセンターとは限らない為、内蓋センターにて距離を測定のこと

## 防護蓋

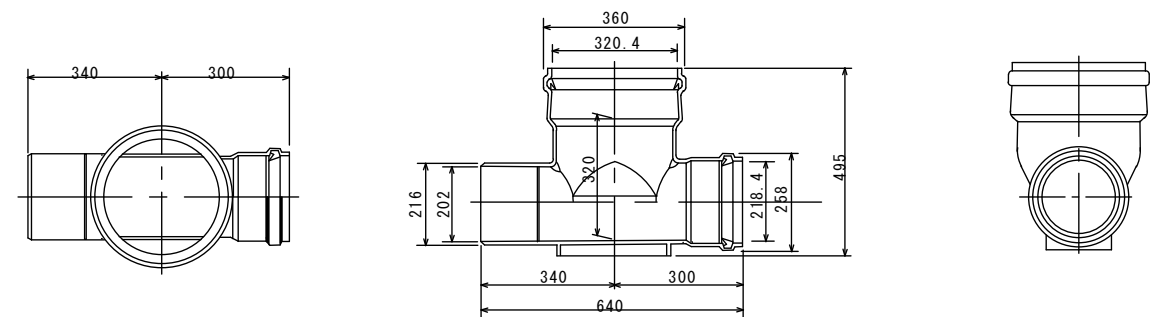


## 塩ビ蓋

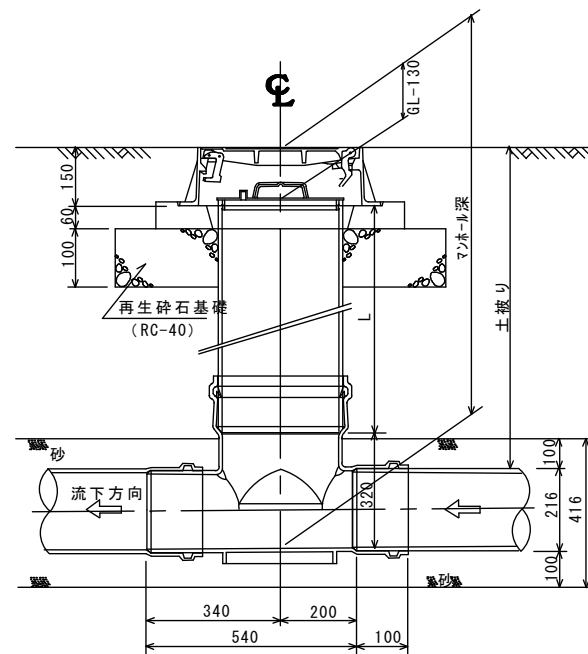
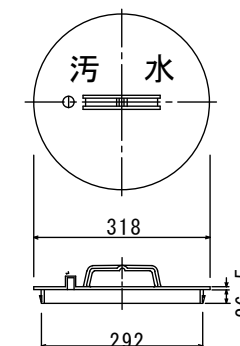


※富士市設計要領に基づいたふたを設置すること

## 小口径ホール詳細図



## 内蓋詳細図

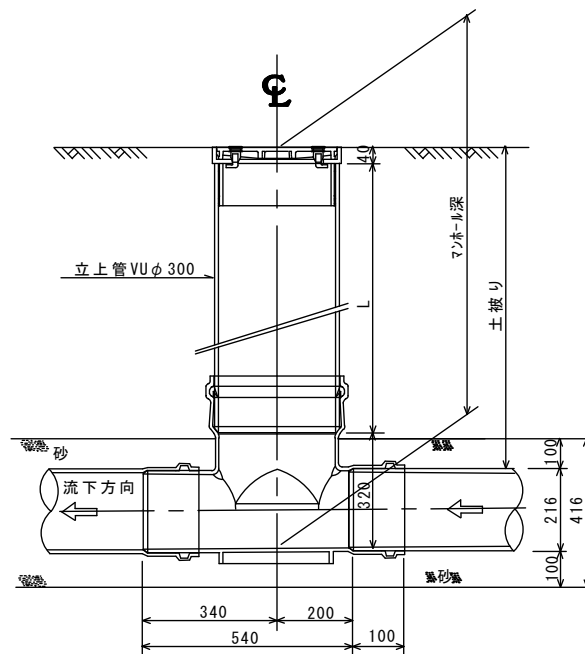


管基礎については、管布設工にてマンホール部も計上する

※鉄蓋から立上がり管までの下がりは130mmで施工すること。  
(内蓋までの下がりではない)

製品の底魁角度一覧表

0°
15°
30°
45°
60°
75°
90°



管基礎については、管布設工にてマンホール部も計上する

製品の底魁角度一覧表

0°
15°
30°
45°
60°
75°
90°

※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。

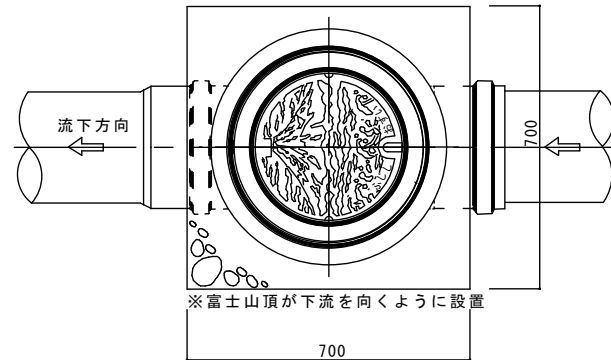
下水道標準設計図

# φ300小口径 (φ150本管用)

## 設置図

### 防護蓋仕様

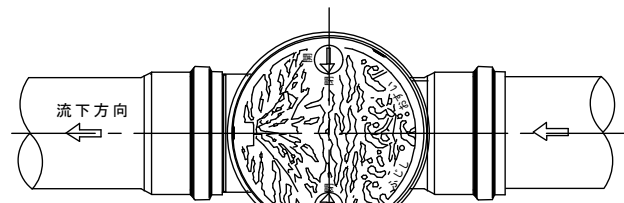
(T-14, 25)



※富士山頂が下流を向くように設置

### 塩ビ蓋仕様

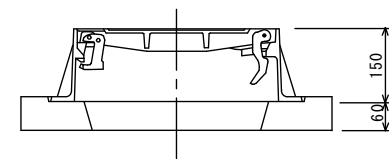
(T-2)



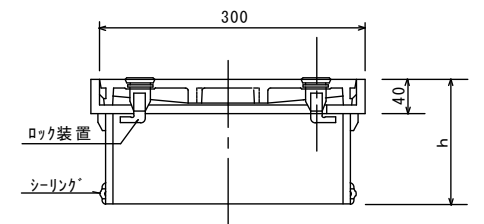
※富士山頂が下流を向くように設置

※防護蓋の中心が小口径ホールのセンターとは限らない為、内蓋センターにて距離を測定のこと

## 防護蓋

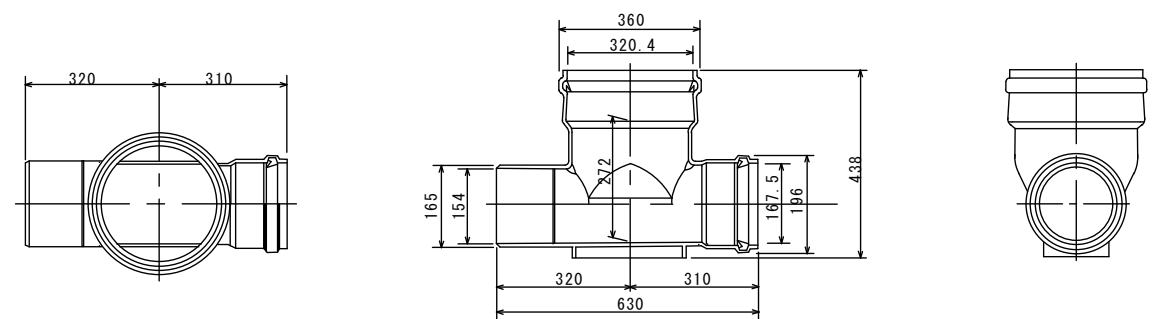


## 塩ビ蓋

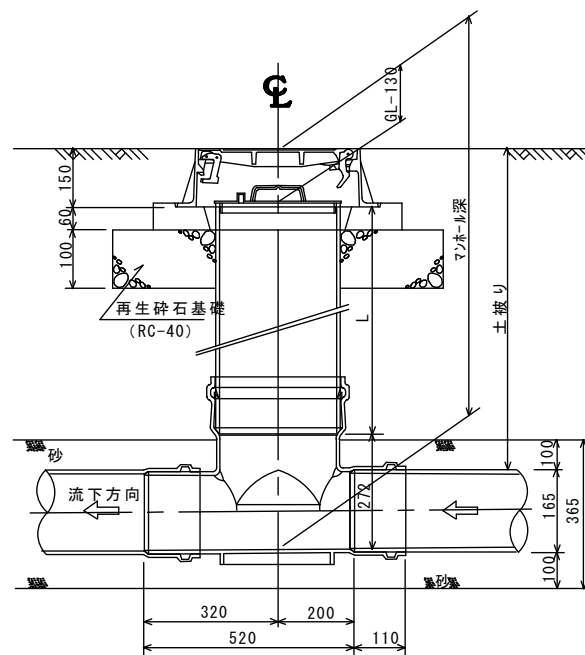
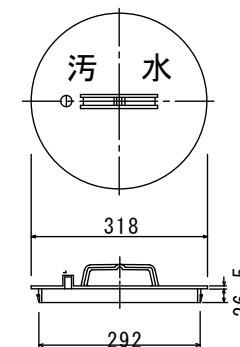


※富士市設計要領に基づいたふたを設置すること

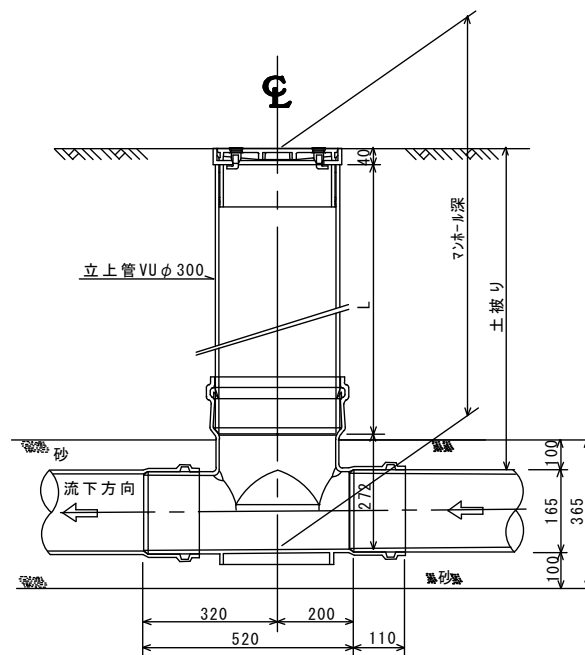
## 小型マンホール詳細図



## 内蓋詳細図



管基礎については、管布設工にてマンホール部も計上する



管基礎については、管布設工にてマンホール部も計上する

※鉄蓋から立上がり管までの下がり130mmで施工すること。  
(内蓋までの下がりではない)

製品の底角角度一覧表

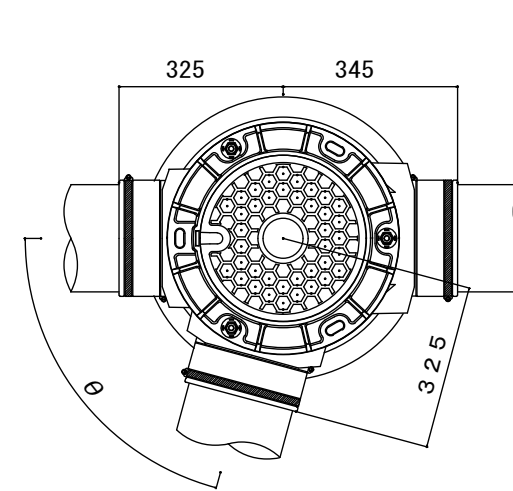
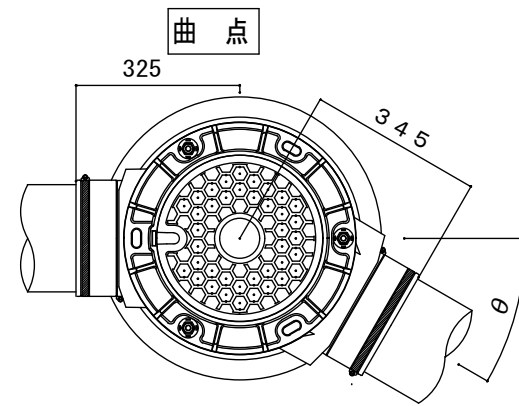
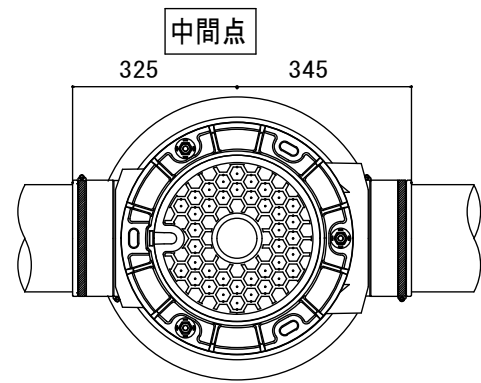
0°
15°
30°
45°
60°
75°
90°

製品の底角角度一覧表

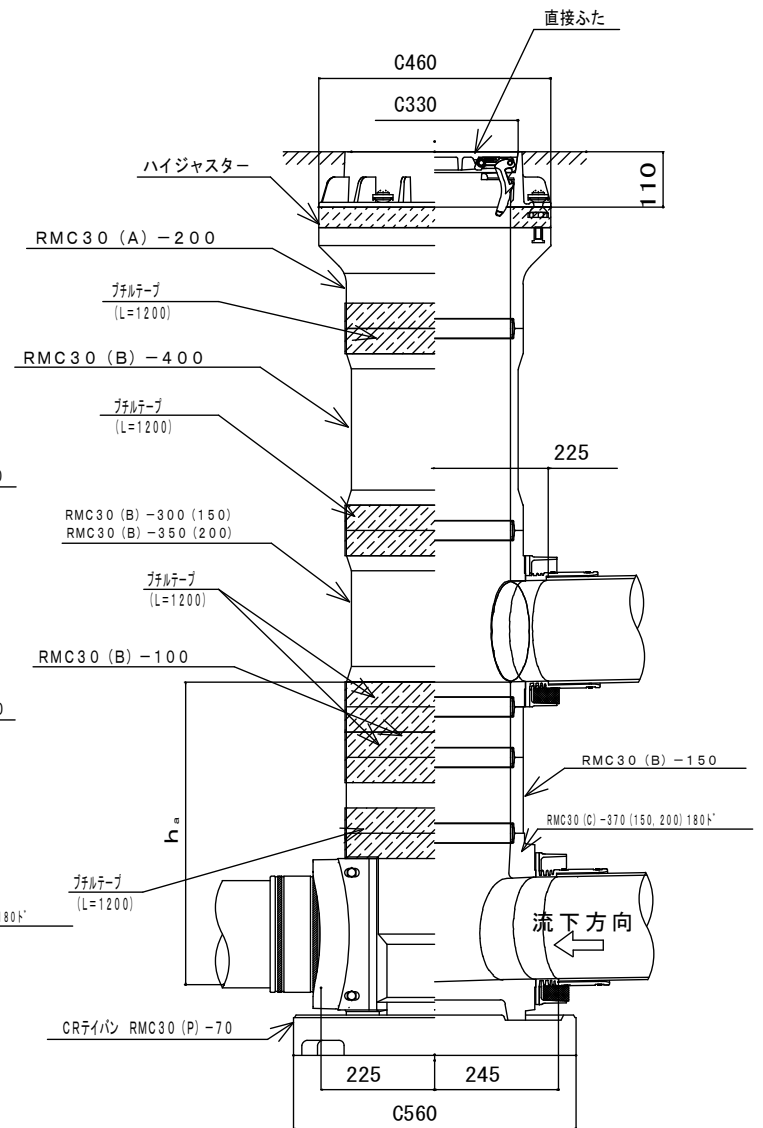
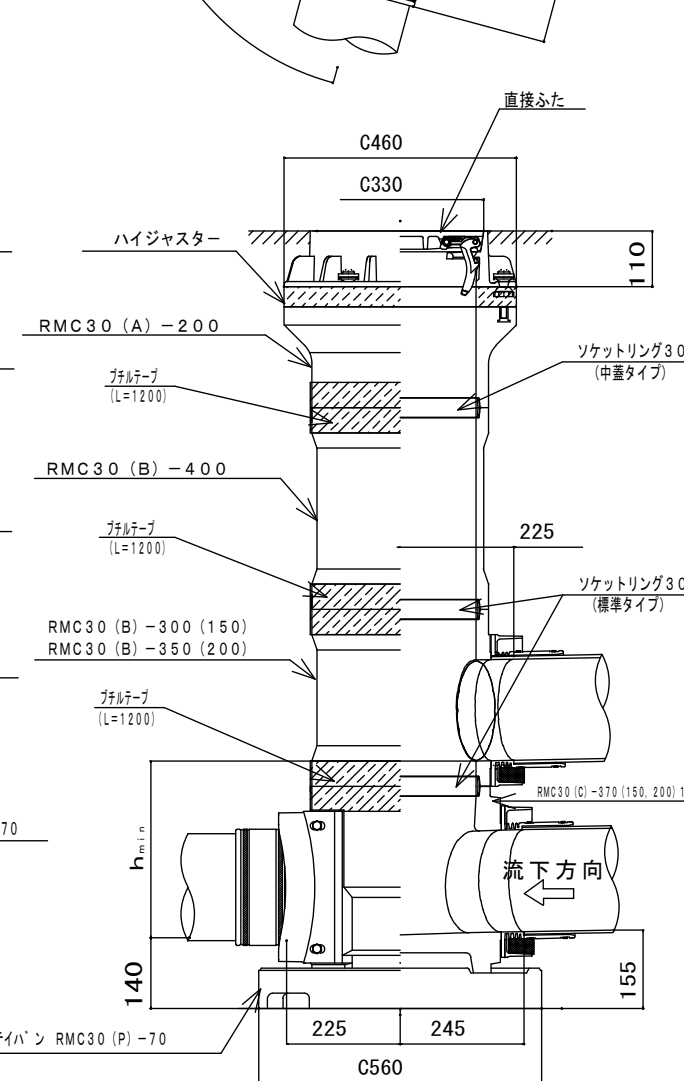
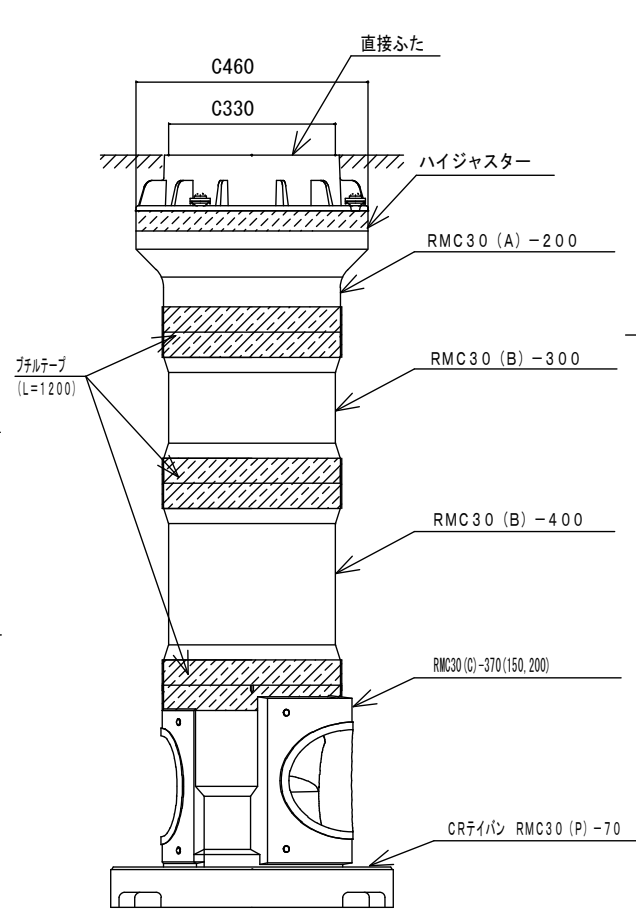
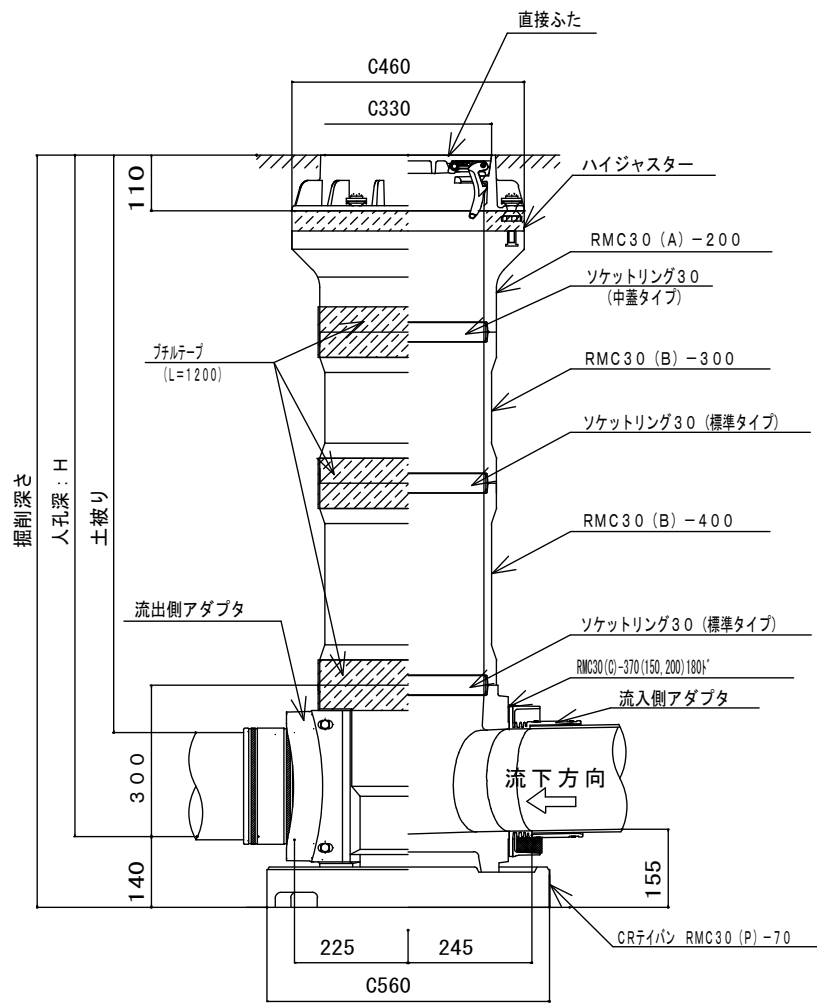
0°
15°
30°
45°
60°
75°
90°

※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。

# 小型レジンマンホール設置標準図 (沈下防止スペーサー付)



高所流入



中間点・曲点

管きよ径	インパート	
	タイプ名	可動角度 (θ)
φ150	RMC30 (C) -370 (150) 90/270°	90° (270°) <sup>+7.50</sup> / <sub>(-7.50)</sub>
	RMC30 (C) -370 (150) 105/255°	105° (255°) <sup>+7.5</sup> / <sub>(-7.50)</sub>
	RMC30 (C) -370 (150) 120/240°	120° (240°) P7. 5D
	RMC30 (C) -370 (150) 135/225°	135° (225°) P7. 5D
	RMC30 (C) -370 (150) 150/210°	150° (210°) P7. 5D
	RMC30 (C) -370 (150) 165/195°	165° (195°) P7. 5D
	RMC30 (C) -370 (150) 180°	180° P7. 5D

中間点・曲点

管きよ径	インパート	
	タイプ名	可動角度 (θ)
φ200	RMC30 (C) -370 (200) 90/270°	90° (270°) <sup>+7.50</sup> / <sub>(-7.50)</sub>
	RMC30 (C) -370 (200) 97. 5/262. 5°	97. 5° (262. 5°) <sup>+7. 5</sup> / <sub>(-7. 50)</sub>
	RMC30 (C) -370 (200) 105/255°	105° (255°) <sup>+7. 50</sup> / <sub>(-7. 50)</sub>
	RMC30 (C) -370 (200) 120/240°	120° (240°) P7. 5D
	RMC30 (C) -370 (200) 135/225°	135° (225°) P7. 5D
	RMC30 (C) -370 (200) 150/210°	150° (210°) P7. 5D
	RMC30 (C) -370 (200) 165/195°	165° (195°) P7. 5D
RMC30 (C) -370 (200) 180°	180° P7. 5D	

高所流入

管きよ径	高所流入用中間壁	最小落差	落差	角度
	タイプ名	$h_{min}$	$h_s$	(θ)
φ150	RMC30 (B) -300 (150)	350	350+50x (x=0, 1, ...)	0°~360°
φ200	RMC30 (B) -350 (200)	350	350+50x (x=0, 1, ...)	0°~360°

底板種類 (外形mm) φ560・φ750  
 φ560: 管径φ150・φ200の良質地盤用  
 φ750: 管径φ250・または軟弱地盤用

※富士市設計要領に基づいたふたを設置すること

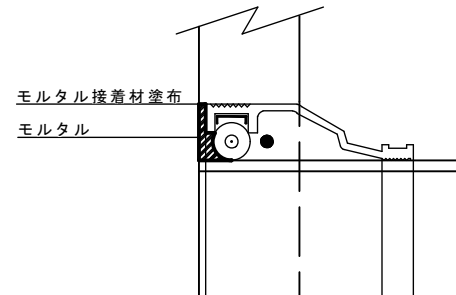
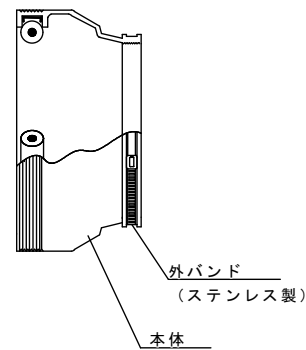
※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。 下水道標準設計図

可とう性継手

モルタル仕上図

1号マンホール内副管設置工  
(本管径φ200以下、塩ビ管用)

可とう性継手仕様

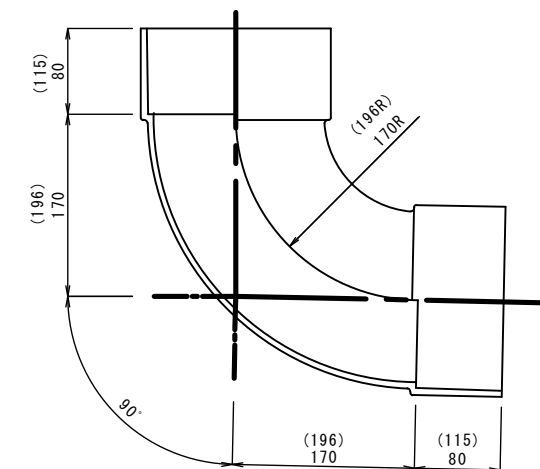
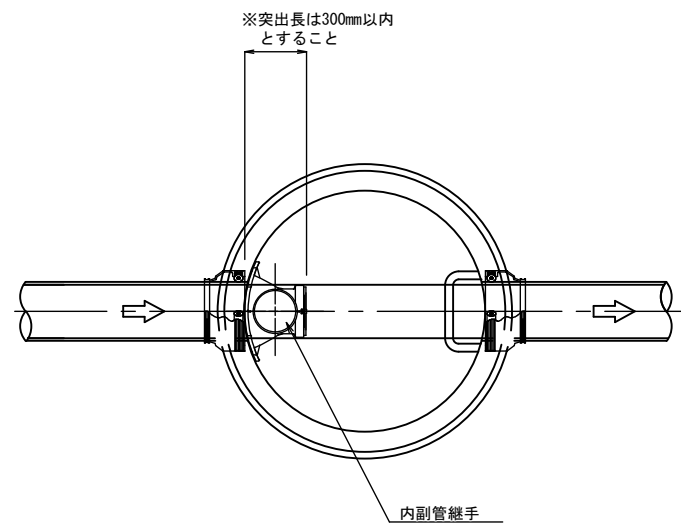
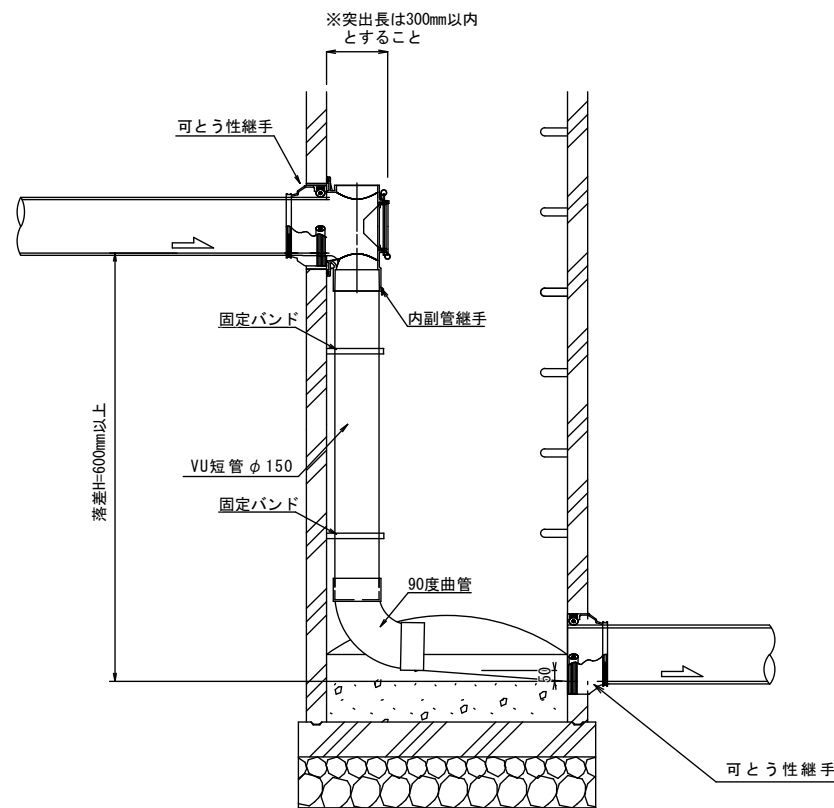


本管径 (mm)	副管径 (mm)
150	150
200	150

断面図 s=1:20

副管用90°曲管 (90° S T) s=1:5

寸法は、副管径φ150用寸法。  
( ) 書き寸法は、副管径φ200用寸法。



※内副管の管底は、下流管底より50mm上げとすること。

※副管の人孔内への突出は300mm以内とすること。

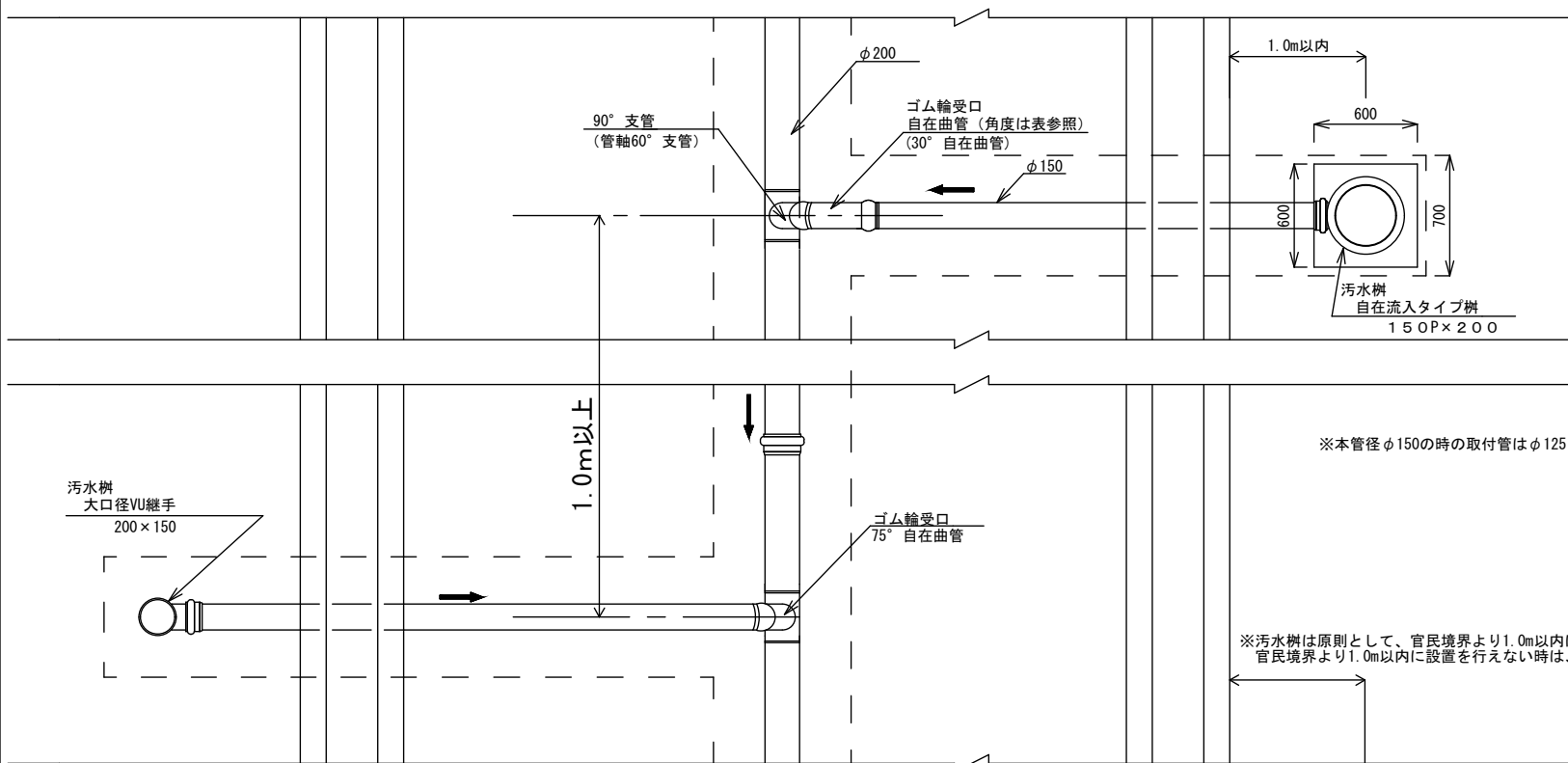
※維持管理作業を考慮し内副管の撤去・復旧が容易な構造 (貼付タイプ等) とする。

※1号人孔への内副管の設置は1個までとする。

※基礎材は原則として再生材を使用するものとする。  
※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。

# 取付管工

平面図 S=FREE



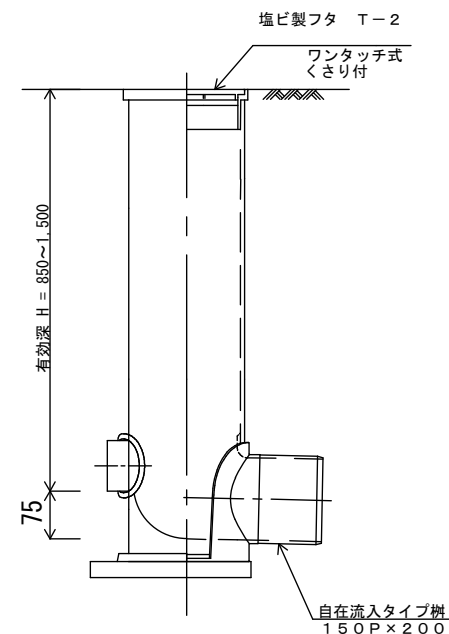
※本管径φ150の時の取付管はφ125を使用する。

※汚水樹は原則として、官民境界より1.0m以内に設置する。官民境界より1.0m以内に設置を行えない時は、監督員と協議を行う事。

# 汚水樹設置工

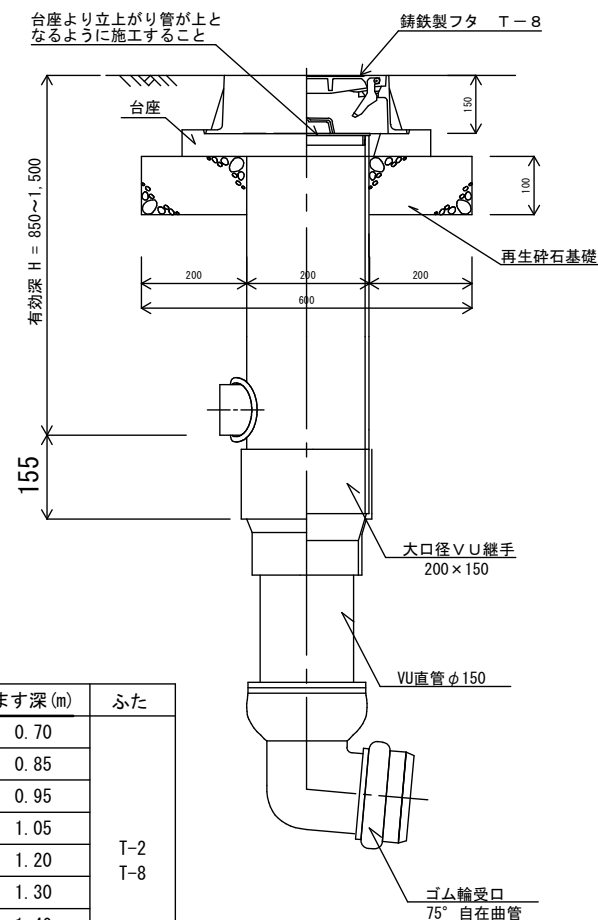
## クロス型設置図

自在流入タイプ樹  
150P×200



## ドロップ型設置図

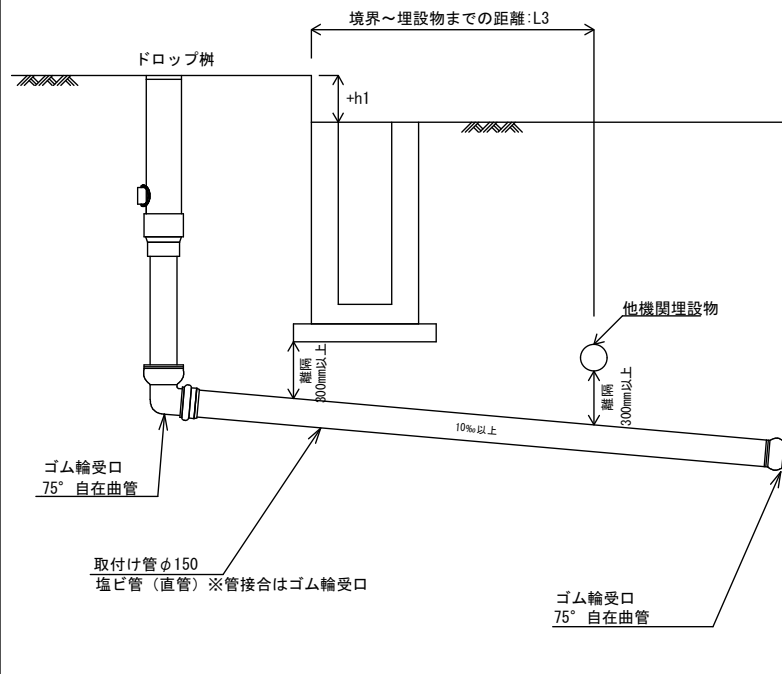
大口径VU継ぎ手  
200×150



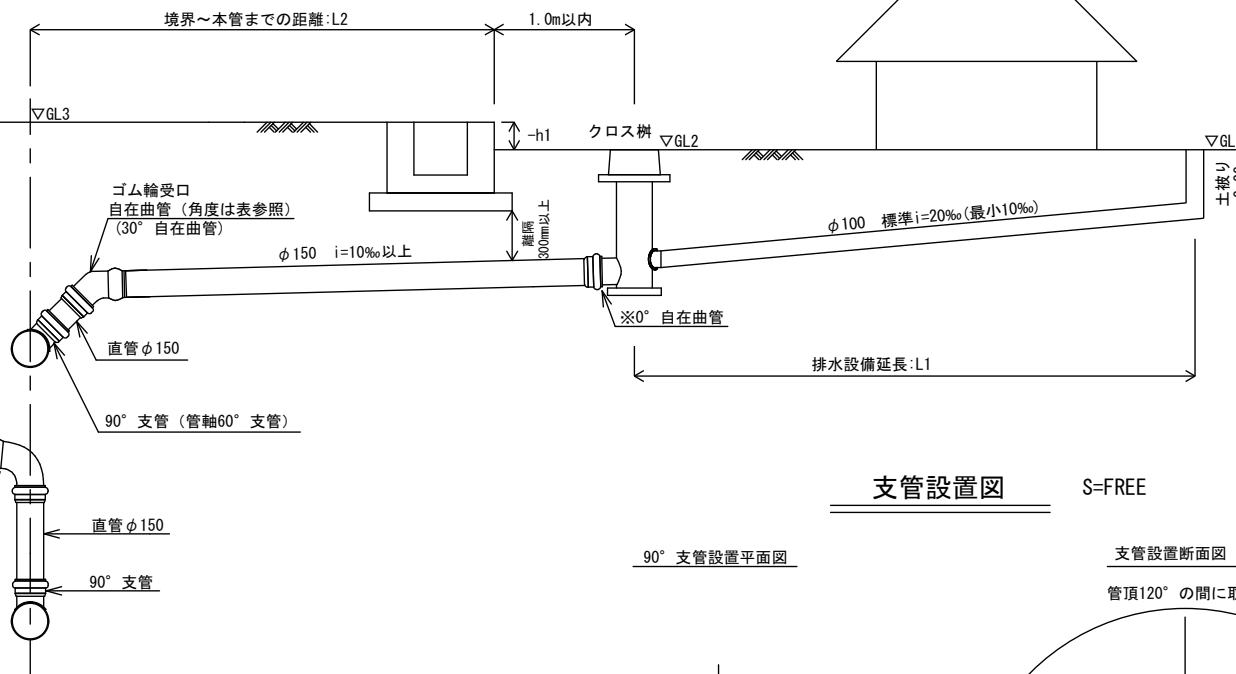
汚水ます	ます深 (m)	ふた
1号汚水ます	0.70	T-2 T-8
2号汚水ます	0.85	
3号汚水ます	0.95	
4号汚水ます	1.05	
5号汚水ます	1.20	
6号汚水ます	1.30	T-8
	1.40	
	1.50	
小口径ホール	1.50超	

※2号汚水ます以上の使用を標準とする  
※ます深は有効深までの深さとする  
※ふたは必要に応じ「T-14」「T-25」を使用する

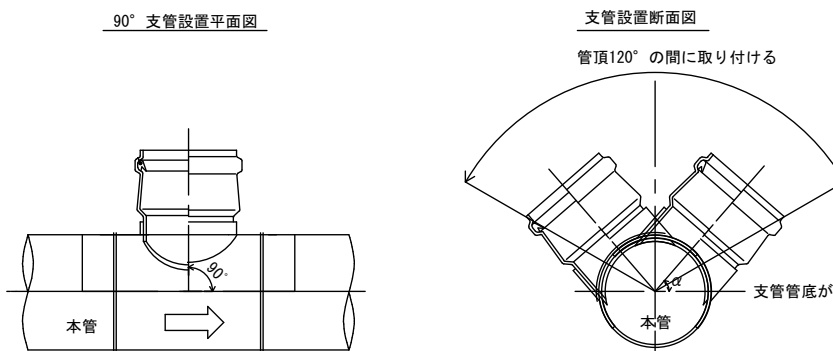
## 断面図



## 断面図



## 支管設置図 S=FREE



## 本管径別自在曲管標準使用表

本管径	支管取付角度(α)	自在曲管角度(θ)
φ150	60°	45°
φ200	60°	45°
φ250	45°	30°
φ300	30°	15°
φ350	30°	15°
φ400	30°	15°
管軸60°支管使用時		30°

### 注意

宅内樹設置にあたり施工前に再度土地所有者と位置確認を行うこと。又、樹深さの検討を行うこと。

### 支管取付上の注意点

- ・取付管の接続間隔は1m以上とする
- ・本管接合部のけれん及び清掃
- ・支管用接合剤使用
- ・SUS番線#12使用
- ・専用SUSバンド使用可

※この図面は、一般図であり同等以上の仕様で施工を行うものとする。